

平成 29 年度第 1 回遠軽町まちづくり会議全体会議録（要旨）

- 日 時 平成 29 年 11 月 6 日（月）18 時 30 分～20 時 00 分
- 場 所 丸瀬布コミュニティセンター多目的ホール
- 出 席 別添のとおり
- 欠 席 別添のとおり
- 町出席者 総務部長、企画課長、企画課主幹、各総合支所長、丸瀬布総合支所地域住民課主幹
- 会議内容（主な発言を収録。内容は要約している。）

1 開会

18：30 開始 佐藤企画課長

2 町長あいさつ（総務部長代理）

足元が悪い中、御出席いただきお礼申し上げます。町長が急きょ、どうしても抜けられない事情があり、欠席になった。お詫び申し上げます。遠軽町まちづくり会議は昨年度から始まり、昨年度は 1 回の開催。今年度は各地域において 2 回ほど開催され、各地域の中で今回の議案のような提言をまとめていただいている。前段の地域審議会、そして今回のまちづくり会議を含めて、4 地域が集まって会議をするのは初めて。皆様がこういう形で集ってもらい、大変よろしいことだが、この場に町長がいないことについては大変申し訳ない。本日出された提言については、十分町長に伝えたい。今後のまちづくりの中で実現できるように検討してまいりたい。また、地域で考えていることを地域同士でディスカッションの時間もある。その中でまちづくりに十分生かしていきたい。よろしく願います。



3 各地域からの発表

発表順については、くじ引きにて決定。1番 遠軽地域、2番 丸瀬布地域、3番 白滝地域、4番 生田原地域となった。

(1) 遠軽地域まちづくり会議からの発表（発表者：平野委員）

- ・各委員の紹介
- ・活動経過について報告、8月7日に第1回、9月4日に第2回の会議を開催した。
- ・地域の課題として次のような事項が挙げられた。
 - 遠軽のブランド力をUPする
 - 町民同士の交流や情報共有を充実する
 - 少子高齢化に対応すること
 - 産業の活性化を図ること
 - 若者などの人づくり
 - 公共交通の利便性を向上する



【提言その1 コミュニティラジオ局の開設について】

地域の情報を音で伝える発信方法として、ラジオに着目し、地域のラジオ局開設を提言する。遠軽町には、瀬戸瀬温泉や瞰望岩など既にいいもの・いいところがたくさんあることを皆で再認識した。しかし、それがきちんと認められていないことが、現状の課題。特産品や観光資源に魅力がないのではなく、その魅力を伝える「情報」を届けることが必要。町では広報誌やホームページで情報を発信しているが、お年寄りやお仕事で忙しい方にはなかなか見ていただけていない。ラジオならば、家事や屋外での作業中にもつけっぱなしにしておくと自然に情報が伝わる。車で移動中も聴くことができる。運営に町民参加を得ることで、地域の情報サロンとして機能し、地域コミュニティの活性化にも効果が期待される。今、北朝鮮のミサイル発射問題でJアラートが注目されているが、防災情報をいち早く届けることにも寄与できる

提言その1 「コミュニティラジオ局の開設」 ●内容 地域情報の声による発信方法として、コミュニティラジオ局を開設する 	提言その1 「コミュニティラジオ局の開設」 ●提案理由 ・遠軽にはいいもの、いいところがたくさんあるにも関わらず、情報が届いていないために認められていない ・紙媒体、インターネットによる情報発信では届かない町民向けの情報媒体となる ・町民の情報交換の場となり、コミュニティ活性化に ・防災情報も届きやすくなる
---	--

【提言 2 保育士や介護士の待遇改善について】

保育士や介護士の待遇改善のために人件費や家賃などの補助を行うことを提案する。保育士や介護士は、少子高齢化社会において最前線を担うお仕事。しかしながら、人手の確保は難しい状況。これらの職業は、一般的に低賃金であるために職場への定着率が低くなりがち。資格を持っていながら仕事をしていなかったり、他の職業に就いていたりという方もいるのが現状。国でも待遇改善の支援を行っているが、独自に上乘せをすることで話題にもなるし、人が集まるきっかけにもなる。保育と介護の担い手が確保されることで、子育てがしやすく、老後も安心して過ごせる町として遠軽町の価値を高めることにつながる。

提言その2
「保育士・介護士の待遇改善」

●内容

少子高齢化の現場を担う保育士や介護士の待遇改善のため独自に人件費や住宅などに補助を行う



提言その2
「保育士・介護士の待遇改善」

●提案理由

- ・保育士や介護士については、少子高齢化社会の最前線でありながら、人材確保が困難
- ・一方で、低賃金の状況が定着できない
- ・国でも待遇改善を図っているが、町独自で上乘せすることで人材の確保を図る
- ・保育と介護が充実し、子育てがしやすく、安心して老後を迎えることができる町になる

町・支庁・道庁・国・府県平均	保育士平均	全産業平均
平均年収	323.3万円	489.2万円
平均年齢	35.0歳	42.3歳

【提言 3 全町合同運動会の開催】

全町合同運動会の開催を提案する。4町村合併から12年経ったが、「地域」ごとの感覚が強く、一つの町としての一体感をもっと強くしたいと考えた。そのためには、子どもを中心に据え、全町合同の運動会を開催することで、親や祖父母まで集まっていただけのではないかと考えた。

提言その3
「全町合同運動会の開催」

●内容

遠軽町全体で運動会を開催する

提言その3
「全町合同運動会の開催」

●提案理由

- ・合併して12年経過したもの、町民どうしの交流はまだ不十分
- ・子どもを中心に親や祖父母まで集まるようなイベントとして「運動会」を提案



【発表の補足】

(宮崎会長) 端折って発表しているが、もっといろんな意見があった。2番目にあった介護士などの助成という話については、元々は少子高齢化ということが問題だった。これは国としても大きな問題だと思うが、遠軽町においても今後重点的に考えて行かなきゃならない問題であると思う。これを突き詰めていったときに待遇改善だとなったので、こういう記載になった。

(藤田委員) 今発表したとおり、町では色々発信をしているが、文字での発信だと皆に伝わらないということが多くあると思う。なので、声による情報発信を実現したいと思う。

(2) 丸瀬布地域まちづくり会議の発表（発表：柳田会長）

- ・各委員の紹介
- ・活動経過について報告、8月9日に第1回、9月7日に第2回を開催した。
- ・地域の課題として次のような事項が挙げられた。
 - 人口減少・高齢化
 - ごみ収集の遠軽地域との頻度の違い
 - 買い物・公共交通の不便さ
 - 丸瀬布厚生病院や遠軽厚生病院の縮小に伴う地域医療への危惧
 - 高規格道路延伸による影響



【提言その1 子育てがしやすく、若者が定住するまちづくりについて】

丸瀬布地域は、高齢化率（65歳以上の割合）が4地域の中で最も高く50%を超えている。合併以降の人口減少率も白滝に次いで2番目に大きく30%の減少となっている。しかしながら、昼間人口は、北見木材や老人福祉施設などもあって、さほどでもないのではないと思われる。少しでもそういったところで働いている若い人たちにぜひ地域に住んでもらいたいということで、住宅の問題だとか、保育所の有効的な使い方などを提案する。国の制度上の問題などもあって、思うように保育所を共働き世帯の人が使えない場面もあるように聞いている。住宅に関しても、現状としては空きがあるようだが、今までは仕切りの関係で若い人たちが入れる住宅が少なかった。そういった面においても、抜け穴と言ってはおかしいが、臨機応変の対応をして有効に使えるようにしてほしい。

提言その1
「子育てがしやすく、若者が定住するまちに」

●内容

- ・保育サービスを充実させる
- ・公営住宅を整備する
- ・子どもの医療費を無償化する



提言その1
「子育てがしやすく、若者が定住するまちに」

●提案理由

- ・丸瀬布地域は、遠軽地域に比べ人口減少率が高く、高齢化率は4地域で1番高く50%を超える
- ・一方で、木材加工工場、高齢者福祉施設などを抱え、若い就業者は比較的多い
- ・遠軽地域から通う就業者が多いので、地域の事業所就業者が丸瀬布地域に住むよう、子育て環境、住環境などを整備し、若者の定住を促す

【提言その2 観光振興による経済活性化について】

丸瀬布地域は、観光資源がたくさんあり、その一つとして道の駅がある。道の駅になんとかキャンピングカーを誘致できないかという話が出た。調べたところ、高規格道路の延伸で道の駅の利用者が前年比40%そこそこに減っている。見方は色々あると思うが、車の走行状態として、思っていたほど下がっていないと感じている。この数を維持して、少しでも広げていくために色々な方策の一環として、近年キャンピングカーがここ10年、11年ほどで全国で倍増している。そういった観点からも、キャンピング

カーというのは、結構、私ぐらいの年齢の方がよく使っておられて、結構な日数を過ごされる。同じ場所に長期間滞在するといった傾向にある。実際に今年、私もキャンピングカーで丸瀬布に滞在している人と知り合いになって、多くの仲間たちもその後、訪れてくれた。その仲間たちの中でネットワークがたくさんあって、その中の一人のブログをのぞいてみると、丸瀬布地域の観光のこと、あるいは、遠軽のコスモス園でもらったコスモスの種できれいな花が咲いたという写真もブログアップされた。そういった面で観光にも役に立つのではないかなと思う。

道の駅のほかに大平高原と大規模林道の整備を挙げている。大平高原は、丸瀬布観光の柱となっているいこいの森周辺のマウレ山荘を含んだ観光拠点の中に入る大変魅力的な広々とした高原で、ここの整備をしっかりとしてもらって、看板や道路の草刈りなどをきちっとしてもらって、できれば映画やドラマを誘致など積極的にしてもらおうと有効活用につながる。ただし、大平高原がきれいなのも牧草地として管理されているから。そういったことも含めて農業の振興も強く望むところ。最近、耕作放棄地が問題となっているが、牧草地に木が生えてきたりすると環境が台無しになってしまう。

また、大規模林道が平成22年から災害で通行止めになって、毎年復旧を求める要請はされているが、今後も強く要望してほしい。温根湯温泉と結びつき、武利岳と結びつき、十勝とも結びつくという観光にとって有意義な道路だと思う。

提言その2 「観光振興による経済活性化」

●内容

- ・道の駅にキャンピングカー客を誘致
- ・大平高原の整備と活用
- ・大規模林道開通を促す



提言その2 「道の駅のキャンピングカー対策」

●提案理由

- ・高規格道路延伸により道の駅利用者は前年比約6割減少、新たな誘客戦略が必要

道の駅まるせっぱ利用者数(木芸館トイレ333利用者)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
平成28年度	55,577	113,166	72,475	123,081	163,650	123,017	650,966
平成29年度	19,761	48,200	35,733	49,032	71,706	43,901	268,333
前年比	36%	43%	49%	40%	44%	36%	41%

提言その2 「道の駅のキャンピングカー対策」

●提案理由



キャンピングカーの保有台数が11年で倍増！

提言その2 「道の駅のキャンピングカー対策」

●提案理由

- ・キャンピングカーは、比較的滞在時間が長く、地域経済への効果も大きい？
- ・ユーザー同士のネットワークがあるため口コミで評判が伝わりやすい
- ・第2の住民「風の人」として、よそ者目線を生かして、まちづくりに参加してもらおうことも考えられる

提言その2 「大平高原、大規模林道の整備・活用」

●提案理由

- ・丸瀬布上武利地域は、いこいの森やマウレ山荘が立地し、本町の主要観光拠点になっている
- ・大平高原は認知度はあまり高くないが、昼の開放感あふれるパノラマ風景や天の川が縦貫する星空の魅力度は高い
- ・大規模林道は土砂崩落により現在通行止めだが、開通すれば温根湯、武利岳と上武利地域につながる
- ・高齢化率の高い地域にとって観光振興による就業者数増が望まれる

【発表の補足】

(塘委員) 保育所について、丸瀬布には保育所が一つしかないが、幼稚園とか保育所とか法的なことでは色々ある。例えば保育所であれば、両親が働いていないとみられないとか法律で決まっている。丸瀬布の保育所は全部で十何人ぐらいしかいなくて私の頃もそうだったが、保育所から高校までずっと同じく友達という感じだったが、親が働いていなければ保育所に通えないとなると、友達と一緒にいられないということになる。平日でもどちらかの親が休みの日は基本だめだというような形があつて、土日休みの人ばかりではないのに、平日休みの人は大変だという話があつた。

【その他コメント】

(中原企画課主幹) 保育所のことに関しては、今年から平日休みでも月に1日だけ認められるようになったと聞いている。

(只野支所長) キャンピングカーについては、道の駅まるせっぷにも来ている。町としては、できればこいの森の方に来てもらう方が入場料などが入ってくるのでありがたい。中には朝早くとか夜遅くに来て道の駅で泊まっていく人もいる。そういった方はネットワークが非常にあるということも聞いているので、その他諸々の人を引き連れてくれて丸瀬布や遠軽町の魅力が伝わって来ていただければありがたいことだが、道の駅にキャンピングカー専用の駐車場を作るとか電源設備を作るとかすると、こいの森では昔、盗電されるということがあつて午後5時には閉鎖するということもあつたので、そうした設備の設置は慎重に検討する必要があると思っている。ただし、キャンピングカーの人たちはお金を持っている人が多いと思うので、お金を落としてくれるという期待はある。大規模林道と大平高原については、大平高原は知名度も上がってきたが、星空がきれいで星を見下ろすような感じになる。前にシンガポールの旅行会社の人を連れて行ったことがあるが、これは素晴らしいと言ってツアーの方たちを実際に連れて行った。こういうのがあれば、地域のホテルにとっても非常にいいのではないかと思う。大規模林道についても、つながれば十勝から20分ぐらい近くなるということもあつて、十勝の方が来やすくなる。温根湯、層雲峡にもつながるということもあつて周遊が期待できるので早く開通してほしい。北の奥入瀬ともいわれるほど溪流がきれいなので私たちも開通を願っている。

保育所については、色々あるが、国の制度などに準じてやらなくちゃならないということで、思うようにいかないところもある。できる限り臨機応変に対応して喜んでいただけるようにしたい。どんどん皆さんの方から要望を上げてほしい。

(3) 白滝地域まちづくり会議の発表（発表：大久保副会長）

- ・各委員の紹介
- ・活動経過について報告、7月31日に地域会議を開催した。
- ・地域の課題として次のような事項が挙げられた。

- 人手不足
- 若者の流出
- 災害復旧
- 空家問題
- 鳥獣対策
- 農業振興
- 観光振興
- 買物・外食



→目指すべきところ「若者が将来に対し、希望の持てるまちづくり」

【まちづくり会議がきっかけとなった改善事例について】

白滝地域まちづくり会議での意見から、実際に改善につながったケースを紹介する。新聞記事にもなったが、白滝地域街づくり会議で「高校生が列車の待ち時間を有効に過ごすために遠軽駅の待合室に机が置いてあるといい。」という発言をきっかけに役場から遠軽駅の方に要請したところ、駅が素早く対応してくれて机が置かれた。高校生にも好評で、今何かと問題となっているＪＲが地域と一緒に利用者のサービス向上を行ってくれたということで、明るいニュースになった。小さな改善だが、住民の声を拾うことで、住みよいまちづくりにつながると思う。



【提言その１ 人口減少・人手不足対策について】

合併して12年経ち、白滝地域の人口は約38%減少した。他の地域も減っているが、白滝は、一段上というのが数字からもわかる。一方で企業では今、人手不足の現状がある。仕事があることを知ってもらえれば、白滝に定住しようという若者もいるのではないかと。多くの若者は、高校を出ると町外に流出している現状がある。白滝は、ほかの地域に比べ、遠軽高校の学区外になっていることもあり、高校から町外に進学する子どもが多い。しかしながら、将来遠軽町に戻ってきて暮らしてもらうためにも、なるべく遠軽高校に進学し

てもらい、地元で友達を作ってもらうことが大事。現在、町では町外から遠軽高校に通う生徒に対する助成をしているが、町内から遠軽高校に通う生徒にも何らかの対策があるといい。

**提言その1
「人口減少・人手不足対策」**

●内容

- ・白滝地域は人口減少率が他地域に比べ高い一方で、事業所では働き手が不足している。安定した稼ぎ口、将来に希望の持てる地域づくりが必要

●現状等

- ・若者は高校卒業と同時に域外へ流出している。
- ・地域の子どもは遠軽高校に進学し、地元で友人がいることが、将来のUターンにつながる。

地域	人口	人口減少率
丸瀬布市	18,277人	21.7%
遠軽町	1,987人	21.7%
白滝町	1,987人	21.7%
町全体	1,987人	21.7%

4町村合併から現在までの人口減少率

丸瀬布市 21.7%
遠軽町 21.7%
白滝町 21.7%
町全体 21.7%
合併後 38.37%

【提言その2 買物・外食対策】

白滝は、Aコープが閉店し、しばらくYYストアということで営業が続けられましたが、閉店してしまいました。生鮮食料品は、車のある人は遠軽などで買い物ができるが、ない方は生協の移動販売車や宅配サービスを利用し不便さがある。同時に市街地唯一の食堂もなくなり、お客さんが来ても昼食をとってもらうことができなくなった。人口がいくら減ったといっても、こうしたことは地域を存続していくには大きく不利。公共交通もJRのほかは週3日の福祉バスが丸瀬布まで走っているだけ。一方で、お店を維持するには地域の方たちが、買い物をして支える必要があるが、これまでもうまくいかなかったこともあり、難しい。

**提言その2
「買い物・外食対策」**

●内容

- ・買い物・外食のできる地域になるよう、出店に対する支援を行う。

●現状等

- ・生鮮食料品を扱うお店がなくなった
- ・食事を提供する場所は、道の駅しらたきのみ
- ・公共交通の利便性も低い
- ・ただし、お店の維持には、株主制度のような地域住民の支える体制が必要

【提言その3 環境美化・整備について】

白滝は人口減少から廃屋も目立つようになって来ている。中には町有の施設もある。まずは、そうしたものを取り壊す。町道周辺の樹木の枝払いや鳥獣害対策も充実してほしい。大雨災害を受けた河川や道路、農地についても早く復旧をお願いしたい。

(中) 白滝は、合併後の人口減少率が飛び抜けて高く38%となっている。2番目に高いのが丸瀬布で31.7%だが、7%もの違いがある。遠軽の減少率は9.42%となっている。町全体は14.72%。ダントツで人口が減少している地域。提言の中にも買物のことなどが挙がっている、

提言その3 「環境美化・整備について」

●内容

・空家対策、河川などの災害復旧、公共施設の取り壊しなど環境美化・町並み整備を進める

●現状等

・空家が増えている。民間の空き家の前に使用しなくなった公共施設があるので、町が範を示す意味で取り壊しをすべき

・町道周辺の樹木の枝払いや鳥獣害対策。

【発表の補足】

(矢木会長) お店をつぶしたのはウチ。なぜかというとは高規格道路ができ、遠軽から通うことができるようになったこと。便利さが遠軽に集中しているので、地方は疲弊が続いている。これから高規格道路が遠軽までつながるとなると何か産業を持ってこないか。交通網がよくなったということは、企業を誘致することが本来は人を増やすことになる。人が増えないと子どもたちに何もしてあげられない。もう一つ町に言いたいのは、役場の職員がボランティアに顔を出さないこと。(今日も) ボランティアで皆さん来ているのに、各地域で役場の職員をあんまり見ない。何かあったときにはお手伝いしてほしい。何らかのメリットを与えてボランティアに出すとか、色々なことを考えて行かないと。上でハンコを押すのは町長なので、せっかく集まったので、みんなで声を上げて、そういうものを訴えて行かない限り地域でなんぼ踏ん張ったって、潰されて終わりになる。地域が疲弊するのではなくて、遠軽町をどう考えるか。合併になったということは絶対引かれるのは分かっていたこと。結局、遠軽に移住して遠軽はそんなに減ってなくて、ほかの3つが疲弊しているのはそういうこと。企業のおすそ分けや除雪なども手厚くするのが役場の姿勢だと思う。町民センターが今度できるということだが、センターができてきれいになるかもしれないが、街並みにはいいことにならない。そのためにも補助を出して企業が生き延びるようなことを考えてもらいたい。皆苦しい思いを持っているので、いいきっかけにしたい。

(大久保) 遠軽駅の机のことで、7月31日に会議をして、8月の末には机が設置されたということを聞いて「早い。」とびっくりした。最近、日が短くなってきて、窓に向かって設置されているので、暗いということ。対策をお願いしたい。

【その他コメント】

(村上支所長) 矢木さんの言われた職員のボランティアのことについて、支所も人数が少なくなって12～3人で仕事を回している状況。イベントについても産業課がほとんど出て、やってないというわけではないと思う。人口の話は、発表された時点より更に少なくなっている状況。つい最近子育て支援の関係の職員、学童保育の職員と話したが、彼女たちも子どもたちのために努力しているなど感じた。私も子どもは大好きなので、地域でいい子どもを作っていっていければと思う。

(4) 生田原地域からの発表（発表：前半（提言その1まで）/遠藤委員、後半/渡部委員）

- ・各委員の紹介
- ・活動経過について、8月4日及び9月27日の2回開催、出席率が高く、それぞれの視点から夢膨らむアイデアが出された。
- ・地域の課題として次のような事項が挙げられた。
 - イベントや観光に関する問題点やアイデア
 - 公共交通や買物の不便さ
 - 空家やお墓の管理問題
 - 河川改修計画によるヤマベの生体への影響
 - 町有放送設備故障の放置、ピノキオハウスの放置
 - 安国と生田原の連携
 - 町の一体感
 - 子どもの遊び場の問題、子どもの医療費、学童保育の問題、お母さんの活躍といった子育てに関連するもの
 - 農業が盛んな地域であるので、農業関連の提言も入れたい



【提言その1 子供向け体験イベントの開催について】

子どもがスポーツやダンス、習い事を始めるきっかけとなるよう体験できるブースが集まったイベントを開催することを提案する。提案理由については、町内にはスポーツ、ダンスを始めとした子どもができる習い事が多数ある。一方で、どんな習い事があるのか分からない部分もある。子どもには、このような活動に積極的に参加することで、心や身体の成長、友達を作るといった様々な効果が期待される。東京にある職業体験のできるアミューズメント施設「キッズニア」のような子どもが主役のまちというイメージに共感して提案した。いろいろ体験してみて、自分に合った習い事に会える機会を作ること、子どもの健やかな成長につながると思う。

提言その1
「子ども向け体験イベントの開催」

●内容

・子どもがスポーツやダンス、習い事を始めるきっかけとなるよう、体験できるブースが集まったイベントを開催する。



提言その1
「子ども向け体験イベントの開催」

●提案理由

・町内にはスポーツやダンスなど子どもができる習い事が多数ある
・自分の興味のある習い事に会える機会を創出

【提言その2 公共交通を絡めたスタンプラリーについて】

J Rやバスを利用して町内の観光ルートを巡るスタンプラリーを行うもの。提案理由は、合併してより広くなった町内をつなぐバスやJ Rなどの公共交通機関は、高齢化が進む今後、今まで以上に重要になってくる。しかし、車が普及し、利用者が少なくなったことで、便数が減って、不便になって、更に利用者が減るという悪循環に陥っている。自分の住む安国地区でもJ Rやバスの本数が少なく、遠軽地区から戻ってくる際にはバスターミナルや駅で長時間待たないといけないという不便を感じている人が多い。安国地区では5本のバスを利用して移動している方も少なからず存在する。なんとか公共交通の利用を促進しないと、このような交通弱者が住みにくいまちになってしまう。会議では、利用者されない、便数が減る、更に利用されなくなるといった悪循環を解消するには、まず、利用促進が必要であるという意見が出た。ほかに、合併して12年経つのに町全体の一体感がないという意見もあった。それらを一石二鳥に叶えるのがこのスタンプラリーであると考えた。バスやJ Rに乗って町内の観光スポットを回することで、公共交通機関の利用を促し、白滝にはジオパーク、丸瀬布にはいこいの森、生田原にはちゃちゃワールド、遠軽にはコスモス園というような代表的な観光施設が遠軽町にはある。町内に点在している魅力的な場所をつなげて巡ってもらうことで、観光客の滞在時間を延ばし、経済効果を生んで、最終的には公共交通機関が維持されるだけでなく、便数が増えることも想定してこのような提言とした。

提言その2

「公共交通を絡めたスタンプラリーの開催」

●内容

・JRや路線バスを利用して巡るスタンプラリーを実施し、公共交通の利用を促すとともに、町内の観光施設間の連携により周遊を促す。



提言その2

「公共交通を絡めたスタンプラリーの開催」

●提案理由

・広い町内をつなぐ公共交通の利用を促進しなければ、路線を維持できない
・町内には魅力的な観光スポットが点在しているので、複数箇所を見てもうためにスタンプラリーで周遊を促す

【提言その3 湧別原野ホップクロスカントリースキー大会の生田原コースの創設について】

同大会については、白滝、丸瀬布、遠軽、湧別にコースが設定されているが、町内4地域で生田原のみ大会に絡めていない。町全体で大会を盛り上げたいという思いと、生田原地域の活性化を図るという思いから提言するもの。個人的には、生田原にはノースキングという温泉宿泊施設があるので、クロカンに参加した後にノースキングの温泉でゆっくり体を癒してというようなアピールができれば、地域の経済効果を上げられると考えている。生田原温泉の魅力も全国に発信できる。

提言その3
「湧別原野クロカンスキー大会生田原コースの創設」

●内容

- ・生田原地域を滑る新コースを創設する



提言その3
「湧別原野クロカンスキー大会生田原コースの創設」

●提案理由

- ・4地域で唯一同大会のコースがない
- ・全町で大会を盛り上げるとともに、生田原地域の活性化を図る

【提言その4 大学と連携した農業労働力の確保について】

網走には東京農業大学の網走キャンパスがある。こうしたところと連携して農業繁忙期における人手不足の解消を図るもの。ちょうど大学の夏休みは農業繁忙期と重なる。農業に関心のある学生に泊まり込みで作業を手伝ってもらうよう大学と協定を結んで学生を派遣してもらう。提案理由については、受入側では人手不足の解消。学生については、農業の実地体験ができ、アルバイトにもなり、合間に地域の観光もできるというメリットがある。将来の担い手の獲得にもつながるかもしれない。派遣側と受入側両方にとってメリットがあるウイン-ウインの関係が築けるのではないかな。

提言その4
「大学と連携して農業労働力を確保」

●内容

- ・大学(東京農業大学網走キャンパスなど)と連携して、夏休み中の学生に農作業に従事してもらう



提言その4
「大学と連携して農業労働力を確保」

●提案理由

- ・農業者は農繁期に人手がほしい
- ・学生は、農作業の体験実習をしながら地域に滞在しながら、こづかい稼ぎとなる
- ・大学と町が協定を結び、組織的に学生と農家をつなぐことでWin-Winの関係を築く

【発表の補足】

(舟木会長) 補足は特にないが、先ほど矢木会長が言われたことには共感ができる。

(杉本副会長) 皆さんと一緒に打合せしたことをきっちり発表できた。

【その他のコメント】

(中原企画課主幹) 一つ目の提言では、各団体面白い活動をしているが、情報が伝わって

いないというのが課題となった提言だが、同じような話は遠軽地域や丸瀬布地域でも話題になっていた。各地域ごとに特色のある提言もあるが、そうした共通点も見られた。公共交通の提言があったが、今JR問題を企画課で担当している。利用促進をしていかないとならない。赤字がなくなる訳ではないが、一人でも多く利用する、減少傾向が続いているが、ちょっと上がるだけでも遠軽町頑張っているなというのが見える。そういったときに、増えたところを見せられるというのが大事になってくる。ありがたい提言。農業の関係については、人手不足があるということで、学生に来てもらうのは面白いアイデア。

(門脇生田原総合支所長) 私のところからどうということはないが、4つ目の提言で大学と連携して農業労働力を確保するという提言だったが、江面さんのところでは、自分のところで独自に大学に限らず、海外も含め事業展開ができていると聞いている。そのことを聞かせてもらいたい。

(白滝地域まちづくり会議 江面委員) 江面ファームでは地域のデメンさんにももちろん来ていただいているが、それに加えて住み込みという形で自分の家と隣の家を宿泊施設にして住み込みボランティアで来ていただいている。年間でだいたい50人来ていただいている。大学生がメイン。江面ファームが始めたきっかけは、白滝の人口減少率が高くて、今は白滝からデメンさんが来てくれているが、高齢の方が多く、これから10年以上白滝で農業をやっていききたいので、早め早めに若い人に来てもらうのが大事だと考えた。今後は、今もやっているが、自分の農業だけではなくて、他の近隣の農家さんにも来てもらった人を派遣して就農させていただいた地域に還元できればと考えている。

4 町長からの講評

(加藤総務部長) レジメには町長からの講評ということだが、それは別として、私から一言感じたことを申し上げたい。まちづくり会議の要綱には「活力に満ち、ゆとりと豊かさが実感できる住みよい遠軽町を創造するためまちづくり会議を置く」ということが書かれている。前の地域審議会や地域ごとの町政懇談会など色々な会議に出席してきたが、そこはまったく別の意見が今回出されている。例えば、地域の町政懇談会だと街灯を直してくれだとか、道路を直してくれだとかという意見が出てくる。町民にとってはそれが一番大切な所かもしれないが、今回のまちづくり会議については、そういう意見がほとんどない。こういうことをやったら地域が良くなるんだというご意見が多々あった。行政としては、こういうことがあったら、最初に「これはできないな。」ということを考えてしまうが、そんなことを言ったらこの場はおしまいになってしまう。今日、ご意見をいただいたので、これをどういうふうにしたらやっていけるのか。ということについて、町としても考えて行かなければならないと思っている。町長も色々な場面で職員に対して、「アイデアは100でも200でも出せ。」という話をされている。「その中で一つでも二つでもできたら成功じゃないか。」と言っている。職員にも色々な意見を出させてはいるが、実際はなかなか出ないというのが本音。そのへんも今回皆様方が集まっていたいて色んな意見を出されたということについては、町としても努力をしなければならないと思ったところ。先ほど丸瀬布のほうで出たキャンピングカーのことについてお話したいが、私は、白滝から毎日遠軽に通っていて、高規格道路を通るよりは下の道を通る方が多い。その際、丸瀬布の道の駅の前を通るのだが、7月～10月は必ずと言っていいほどキャンピングカーが2～3台とまっている。それを見ると、やはりこういうことが使えないのかなと思っていた。今回このような意見が出たので、支所からもあったとおり、キャンピングカーがとまるとなると色んなことがあるしれないが、逆にキャンピングカー専用の枠を作って、そこに電源を設けて、トイレはあるので下水まで設ける必要はないと思うが、そういったことをして一泊いくらというお金の取り方ができるのではないかとことも考えていた。御存じのように、高規格道路がまた何年後かには瀬戸瀬から遠軽の方に延伸になるので、道の駅も皆さんの意見をうかがいながら考えている。その辺も含めて、できるかできないかは別にしてこの地域に人が残ってくれる、そして、来てくれるような施策をと皆さんの御意見をいただきながら努めているところ。それと、各地域で公共交通機関の問題が出されていた。JR問題も先ほどあったように、プラスしてバスの関係とか、生田原地区ではデマンドタクシーをやっている。実際、町の方からしてみると利用されていないというのがあるが、だからなくすというわけではなくて、それをどうやっていくか。道路の関係とJRの関係、取り沙汰されているが、決して高速道路が延びたからJRが少なくなったわけではない。高速道路がこっちに伸びてきたのが平成13年ごろ。そのころすでにJR線は名寄線、湧網線含めて廃止になったところもある。道路が良くなったからJR

に乗らなくなったというわけではない。そのへんはご理解していただきたい。今、企画課でも、何とかしてＪＲを少しでもお客様を増やそうという施策をやっているのですが、今後、御存じのように石北線の車内販売がなくなって、遠軽駅にキオスクもなくなった。急に言われたこともあり対応できなかったが、各地域でＪＲに乗って物産を販売する、車内販売をするという方策も考えている。様々な形で進めて行こうと考えているが、昨日、一昨日と北海道の観光列車が来て、丸瀬布地域のいい森に寄っていただいている。こうしたことを少しでもやって、この地域を分かっていただければ、汽車でもバスでも何かしらで来てくれると思っている。一つ一つについてコメントは差し控えるが、始めから「できない。」という考えは持っていないので、これをどういうふうにしたら成功できるかというのを含めて町長に伝えていきたい。その節は、皆様方にこれはどういう風な考え方で、こういう提言が出たのかというようなことを聞くかもしれない。そういうような意見があったということを踏まえて町として進めて行きたい。貴重な提言をいただいたので、各地域の要望も、まちづくり会議ではなくて、先ほども言った地域の懇談会だとか、様々な場面でご要望とかご意見をうかがう機会があると思うが、今後においても、まちづくり会議はここで終わるわけではないので、また来年に続くと思っているので、色々な中でまたご意見をいただければと思う。今回たくさんのご提言をいただいたので、努力していきたい。町長からの講評ではないが、皆様方からの意見をお聞きした中での感想を述べさせていただいた。

5 平成30年度以降のまちづくり会議のあり方について

(佐藤企画課長) 来年度以降も皆様の意見をお聞きしながら続けていきたい。来年度もこうした形で全体会議をやったほうがいいと思うが、どうか。

(異議なし)

6 その他

(中原企画課主幹) 各地域の議論をまとめた議事録などを近いうちに町のホームページにも載せたいと思っているのでご覧いただきたい。また、来年度も任期が残っているので、来年度もよろしくお願いしたい。

7 閉会

佐藤企画課長 20：00 終了